

キャンパスライフへの キックオフ!



AKIRA TAKAHASHI

群馬県出身。日本体育大学健康
学科卒業後、高校教員、本学の
助手を経て経済学部教授。
担当科目は「健康スポーツ概論」
「スポーツ科学論」「生涯スポー
ツ論」。
関東大学体育連合常任理事、群
馬県サッカー協会副会長他。

私とサッカー

高橋 章

サッカーは 世界のスポーツ

2002年、日韓ワールドカップサッカーが開
催され、日本のマスメディアはこぞって世界最大
のメジャースポーツとして大きく取り扱い、スポー
ツの楽しさを「スポーツをする」ことから「みるス

ポーツ」(応援風景など)もスポーツ参加であると
いう事を再認識される程、サッカーの魅力を思う
存分取り上げた。日本サッカー協会はスタート間
もないプロサッカーリーグであるJリーグを欧米
型の地域に密着した官民一体の構築したスポーツ
クラブの持続的発展と国民的スポーツとして定着
させようと努力している。それは「生涯スポーツ」
をとなえる我々にとって、大変喜ばしいことであ

“カズ” 友人セルジオ越後の記念式典にて



り、新潟の「アルビレックス」、Jリーグ入りを目
指している群馬県の「ザスパ草津」などがその良い
例であろう。

数年前まで、今や人気絶頂のサッカー界を誰が
予想できたであろうか。

野球かサッカーか…？

“ジーコ監督”の現役選手時代
鹿島スタジアム完成セレモニー

野球少年三兄弟の末っ子として育った私は当然のごとく、兄たちが所属する野球部へ。その野球少年がサッカーに走った動機は、中学3年の野球部時代の夏大会が終わる頃、東大サッカー部出身の先生が授業中に「サッカーは世界の国々で国技として行われ、サッカーをすれば世界各国に行ったり、多くの友達ができる…」と、時々話されたこと。その先生たちと遊びや体育授業で、「一つのボールを追い掛けて、一杯蹴ったボールがゴールした瞬間の醍醐味が応えられず」野球部仲間と共にサッカー部を創部したことである。



当時、運動好きな子は当然のごとく野球を志す者が多く、背番号③長嶋選手に憧れて野球に明け暮れ、サッカーなど見聞きした覚えもない。創部したころは県内でサッカー部として活動していた高校など両手で数えられるほどであった。サッカー部が狭い校庭一杯に練習するから、他のクラブに迷惑をかける。次第に野球のマウンドがじゃまになって削ってしまい、ついに廃部になった。野球部を廃部に追いやったことが良いか悪いかは別問題として、その数年後にソフトボール部が創部され、今では全国制覇を連覇する名門校になっている。サッカー部は2年後の新人戦に初優勝してから県内無敵となって、全国大会への常連校となった。もし、野球部が存続していたら、現在のソフトボール部が存在したかどうか。

友は最良の師

大学卒業後、高校教員を経て、本学教員に誘われて30余年。

その間、高崎市内で県内初めてのサッカースクー
ルを開校。群馬県の少年男子や群馬国体選抜チ
ームの強化普及の総責任者として携わり、女子サッ
カー連盟も創設した。研究活動も日本サッカー協
会・科学委員のメンバーとして、調査研究で全国各
地を訪れて資料収集した。1979年、日本でワー
ルドユース・サッカー大会が開催、アルゼンチンの
ディエゴ・馬拉ドーナ(当時19歳)を追跡調査して、
その芸術的なスーパースタールに魅了されてサッカー
の奥深さを知り、日本サッカー協会の上級コーチ

ライセンスを習得する。サッカー母国のイギリス
や西ドイツなどのコーチングスクールを受講し、
四年に一度のワールドカップ(伊、米、仏大会)の
視察研修を重ね、益々サッカーの魅力から離れら
れないでいる。

少年時代から現在まで、夢中になる程のサッカー
大好き人間になった事は、世界中を訪ね、指導者と
して多くの友人に恵まれたことが生涯で最も良い
選択の一つだったと思っている。関東大学サッカー
選抜チームの監督を引き受けた時、良きパートナー
としてのコーチが現サッカー協会技術委員長・田
島幸三氏であり、ちなみにアテネオリンピック代
表「なでしこジャパン」上田監督は教え子である。
研究室には世界のサッカー資料や写真、試合の
ビデオなど部屋中に飾ってある。サッカーや世界
のスポーツ事情、スポーツマネージメント等に興
味のある学生はいつでも歓迎する。



レアルマドリッド(スペイン)のホームグラウンド
2004年9月 開幕試合